

(記入上の注意)

1. NOには群落の表示番号を記入する。

2. 群落名：当該調査地の植物群落名を記入する。

高木層の優占種と低木層（または草木層）の優占種とをハイフンでつないであらわすのが望ましい。例えば、ブナーチシマザサ群落、またはブナーチシマザサーミヤマカンスゲ群落などとなる。

3. 調査地：府県、市、町村名は必ず記入し、加えて宇、河川、沢、山地名などの記入は5万分の1地形図上の名称なるべく採用する。

4. 図幅： 5万分の1地形図名を記入する。なお調査地の位

置を明らかにするため地形図を右のように4等分して該当する上下左右の箇所を○で囲む。

上 左	上 右
下 左	下 右

5. 海拔：近くの三角点、水準点、独標点などで更正した携帯用高度計で測定する。やむをえない場合は5万分の1地形図上で推定する。10mのケタまで記入する。

6. 方位：調査区が面している方向をクリノメータで測定し、N22°Wのように記入し、NNWという表現はできるだけ

さける。

7．傾斜：調査区斜面のほぼ平均とみられるところをクリノメーターで測定する。

8．面積：縦×横 m で表現する。調査区的面積は少なくとも最小面積の2倍以上の面積をとることがのぞましい。

9．出現種数：各層の種数の和から、2つ以上の階層に出現する種類の重複分を差引いたものを記入する。

10．地形：調査区の位置する地形区分を○で囲む。斜面上にある場合は斜面主方向にそって上中下区分と凸凹別で表現する（凸凹のない場合は凸凹チェックなしとする）。傾斜5°以下である程度広がりをもつ場合は平地とするが、谷底平地とは区別すること。

谷底平地は谷と平地をダブルチェックして表わす。

11．土壌：該当する土壌型名を○で囲む。調査表内の略称はつぎの土壌型を表わしている。ポド性 - ポドゾール性土、褐森——褐色森林土、赤——赤色土、黄 - 黄色土、黄褐森——黄褐色森林土、アンド——火山灰土壌（黒色土壌）、グライ——グライ土、擬グライ——擬グライ土、沼沢——沼沢土、沖積——沖積土、高湿草——高山湿草地土、非固

岩屑——非固結岩屑土、固岩屑——固結岩屑土、水面下——水面下土壤、その他

1 2 . 風当・日当：調査区をとりまく地形的特徴に注意し、遮蔽物の有無や樹形の変化などにも留意してチェックする（○で囲む）。

1 3 . 土湿：乾とは土塊をにぎって湿りを感じない場合、適とは湿りを感じ、湿とは水が出るがたれない。過湿とは水がしたたる場合、としてチェックする。

1 4 . 階層：独立または比較的独立した植物層（葉群層）を一つの階層とし、自然の階層を映し出すように把握する。森林の場合階層は基本的には T 1 高木層、T 2 亜高木層、S 低木層、H 草本層、M コケ層の 5 層に分かつ。低木層及び草本層が更に細分可能の場合は各々に第 1、第 2 または S - 1、S - 2、H - 1、H - 2 を区分して記入する。そのため S、H には余白を設けてある。草本の場合には草本層は上層と下層に分けられる。その他の区分を必要とする場合には適宜工夫する。低木林の調査では高木層と亜高木層の欄は空白となる。

1 5 . 優占種：各階層の優占種の植物名を記入する。同一の階層に優占種が複数のときは少なくとも二種類を記入する。

16．高さ：各階層の葉群層の上限と下限の高さを記入する。

例えば 8 ~ 15 m のように上限は ~ の右側に書く。コケ層は上限だけで足りる。

17．植被率：各階層毎の植被率（種類別の被度ではなくその階層全体としての植物被覆の割合）を百分率で判定して記入する。

18．胸径：胸高直径は高木層および亜高木層に限り、各層の最大胸高直径のもののみを測定して記入する。

19．種数：組成表から数えだして各階層ごとに記入する。したがって各層で同じ種類（例えば高木性の種など）が重複して数えられることもある。

20．調査者：直接調査を行なった人をもれなく記入することがのぞましい。責任者には○印をつけておくこと。

21．組成表について：調査区内の種類組成、階層、優占度または被度、群度、活力度および芽生えについて記入する。表中の S 欄は階層、D・S 欄は優占度または被度と群度、V 欄は活力度、S P P 欄は種名をそれぞれ記入する。記入の要領はつぎの通りである。

(S) 階層 : T 1、T 2、S - 1、S - 2、H、Mのように

し、種類のリストはT 1 (高木層) から始めて、順次下

層にいたる。

(D ・ S) 優占度または被度と群度 : 種の優占の度合を判

定するには下記の Braun - B I a n q u e t 法による優占度

一被度と数度 (推定的個体数) の組み合わせによる測定法を

用いる。

- | | | |
|---|-------|---|
| r | | ごくまれに出現 |
| + | | 少数で被度は非常に低い |
| 1 | | 多数だが被度は低い、あるいは少数だが被度は
やや高い |
| 2 | | 非常に多数 (ただし被度は 1 / 1 0 以下) あるいは被度が 1 / 1 0 ~ 1 / 4 (ただし個体数は任意) |
| 3 | | 被度が 1 / 4 ~ 1 / 2 で個体数は任意 |
| 4 | | 被度が 1 / 2 ~ 3 / 4 で個体数は任意 |
| 5 | | 被度が 3 / 4 以上で個体数は任意 |

また群度はつぎの記号で記入する。

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | | 単生する |
| 2 | | 群状または叢状に生育する。 |
| 3 | | 斑状に生育する (小斑あるいはクッション) |
| 4 | | 小さいコロニーをつくって生育するか、あるいはまた大斑かじゅうたんを形成する。 |

5 大群をなす

この (D ・ S) 欄の記載にあたっては優占度 (または被度) を先にし群度をつぎに記す。例えば 4 ・ 2 のようにする。

+ ・ 1 の場合は単に + とのみする。高木層を占める種の群度については調査区外をも概観して評価する。例えば全山がブナでおおわれているがたまたま調査区内にブナが 1 本である場合は 5 ・ 1 とせず 5 ・ 5 とする。

() 活力度と芽生え : 群落内における種個体の生活力により重点をおいた Ellenberg や Knapp の方式にしたがいつぎの記号で記す (略してもよい)

〇〇 極めて生育不良でほとんど果実や種子を生じない

○ 生育不良

無印 生育普通

なお、芽生えである場合にはこの欄に K の記号を記す。

また開花している (f l) 果実や種子をつけている (f r) 場合にも、それぞれの記号をこの欄に記しておく。

2 2 . 植生断面図 : 植生調査を実際に行なわれた植分と、その立地条件との関係を具体的に表現する手段として植生断面の図化は重要である。また地形に対応した群落構造とその配分を概観する手がかりとなる。

したがって、図化には地形に対応した植生配分模式図 (図 1) と、具体的な対象植分自体の群落断面模式図 (図

2) の2通り画く (おもてに空白がない場合には裏面に画く。)

〔例〕

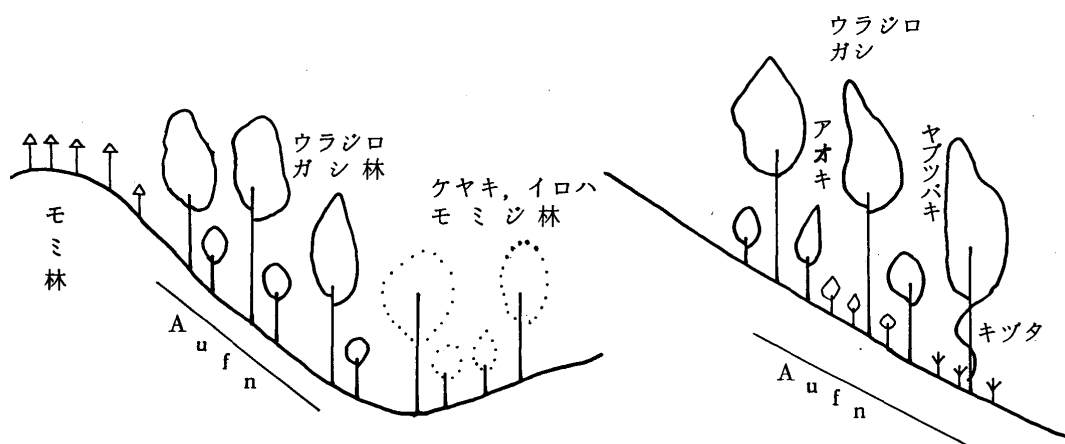


図 1

図 2

<別紙 4 >

報 告 書 作 成 要 領

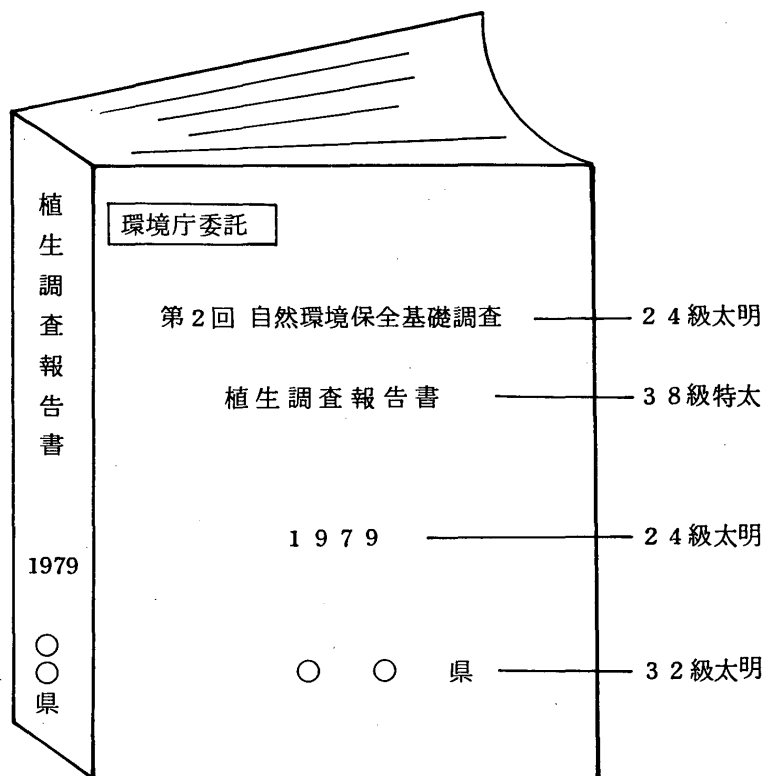
1 . 規 格

B 5 版、左とじ、横書きとする。

印刷は、タイプ印刷程度とする。

2 . 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）は松葉色、厚さは 2 1 5 K g（レザック 6 6 程度）とし、様式は下図によるものとする。



3．配 列

報告書における各項目の配列は以下のとおりとする。

- (1) 目 次
- (2) 調 査 概 要
- (3) 調 査 対 象 地 域 図
- (4) 凡 例 解 説
- (5) 植 生 調 査 表 (または組成表)
- (6) 資 料 リ ス ト
- (7) 調 査 担 当 者 名 簿

4．調査概要

調査地域の範囲、調査の実施方法等の概要について簡潔に記載する。

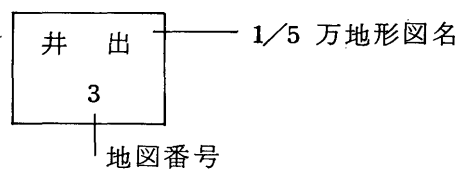
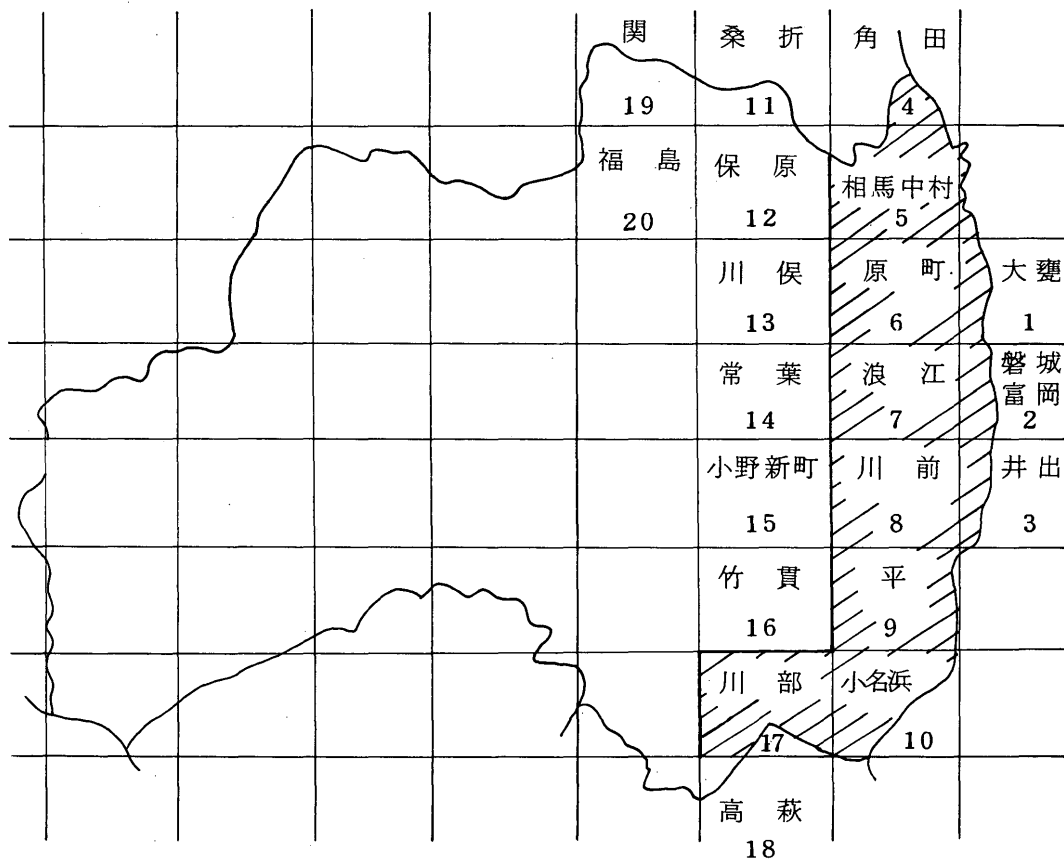
5．調査対象地域図

植生調査の対象となった地域(植生図化された1 / 5 万地形図名)を示すため、次の例のように地図番号図を作成し、調査対象地域図とする。

なお、植生図化された1 / 5 万地形図の図葉は斜線()を入れて示す。

(例)

福島県調査対象地域図

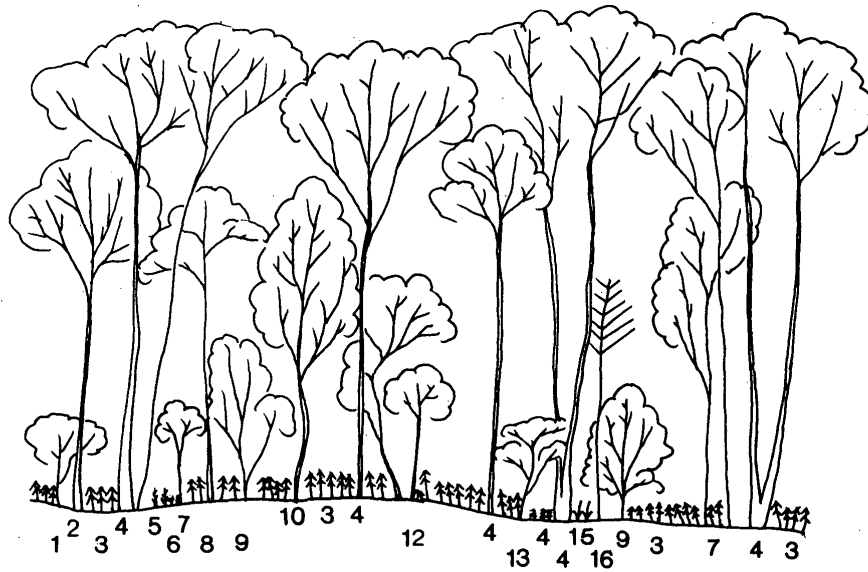


6．凡例解説

- (1) 当該都道府県において使用されたすべての凡例について、その植物群落の相観、立地条件、主要な構成種、県内における分布、保全上の留意事項等その群落の特徴を簡潔に記載する。
- (2) 別表「植生凡例一覧表」に示す以外の凡例の場合は、別表に示す凡例との対応関係を必ず明らかにしておくこと。
- (3) 凡例解説の掲載は、表示番号の順とする。
- (4) 凡例解説の際に、当該植物群落の特徴を示す写真、植生断面模式図及び植生配分模式図等があれば、適宜掲載してさしつかえない。

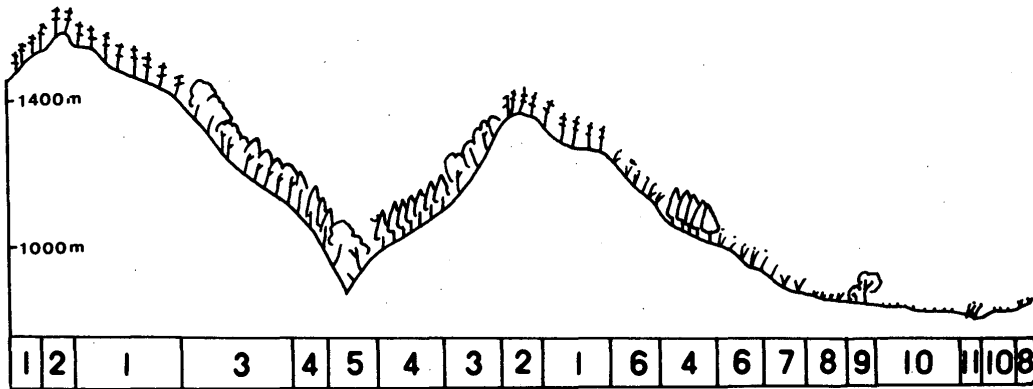
(例)

表示番号	群落名	相観
3 2.	クリーミズナラ群集	
	(相 観)	夏緑広葉樹の高木林、亜高木林
	クリーミズナラ群集は、	-----



クリーミズナラ群集断面模式図

- | | | |
|--------------|-------------|-----------------|
| 1 : ノリウツギ | 7 : ツリバナ | 13 : トウゴクミツバツツジ |
| 2 : クリ | 8 : イタヤカエデ | 14 : ミヤマベニシダ |
| 3 : スズタケ | 9 : ツノハシバミ | 15 : タガネソウ |
| 4 : ミズナラ | 10 : コミネカエデ | 16 : ウラジロモミ |
| 5 : アキノキリンソウ | 11 : オオカメノキ | 17 : リヨウブ |
| 6 : ヘビノネゴザ | 12 : アオダモ | |



植生配分模式図

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 : アカマツ植林 | 7 : 桑畑 |
| 2 : モチツツジ-アカマツ群集 | 8 : ナギナタコウジュ-ハチジョウナ群集 |
| 3 : クリーミズナラ群集 | 9 : 住宅地 |
| 4 : スギ・ヒノキ植林 | 10 : ウリカワーコナギ群集 |
| 5 : アブラチャン-ケヤキ群集 | 11 : ツルヨシ群集 |
| 6 : キバナカワラマツパーススキ群落 | |

7. 植生調査表（または組成表）

（１）調査の結果まとめられた植生調査表（または組成表）

は一括して掲載する。

（２）掲載は、次の順とする。

ア、表目次（様式は次の例による）

（例）

表 目 次	
1. 高山低木群落	62 頁
2. エゾマツートドマツ群集	63
3. アカエゾマツ群集	65
4. ササードケカンパ群落	66
6. チシマザサーブナ群団	67
⋮	⋮

イ、植生調査表（または組成表）

掲載は原則として表示番号の順とし、次の例を参照すること。

表 示 番 号

34 ケヤキーウリノキ群落

植生調查表

No. 34 凡例名 (群落名) ヤキ-ウリキ群落

調査地 長崎 都道府県 大村 郡 黒木 町 ハ丁杉

(地形) 山頂: 尾根 (斜面) 上・中・下・凸 (凹) 谷: 平地 (風当) 強・中・弱

(土壌) ボド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アوند・グライ・擬グライ・ (日当) 陽・中陰・陰

沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑 (固岩屑) 水面下・その他 () (土湿) 乾・適・湿・過湿

(階層) (優占種) (高さ m) (植被率%) (胸径 cm) (種数) (備考)

T ₁ 高木層	14 ~	70	40 ~ 60 cm			
T ₂ 亜高木層	8 ~	30	10 ~ 20 cm			
S 低木層	2 ~	10				
H 草本層	0.7 ~	10				
M コケ層						

調査

地表に 礫多し

流水なし

出現種数: 26

S	D-S	V	SPP.	S	D-S	V	SPP.
T	2	3	ヤキ	S	+	2	ヤブニッケイ
	1	2	ホソバツグ		1	2	シキミ
					+	2	ウリノキ
					H	+	モミジガサ
						+	ジョウモンジシタ
							シラキ K ₁

1979 年 8 月 10 日 調査者

(例2) 組成表の場合

表示番号	群落名				
29	シラカンバーレンゲツツジ群落				
調査区番号		1	2	3	4
調査年月日		'71 8 14	'71 8 14	'72 9 10	'72 9 11
調査面積		200	400	400	300
海拔		1530	-	-	-
方位		-	N	-	-
傾斜		5	-	5	5
高木層の高さ		-	-	(14)	18
"の植被率		-	-	-	60
亜高木層の高さ		9	10	11	7
"の植被率		70	80	70	10
低木層の高さ		3	3.5	2	2.5
"の植被率		60	40	10	20
草本層の高さ		0.5	0.8	1	1.5
"の植被率		70	50	80	80
出現種数		28	38	31	43
群集標微種および区分種	階層				
シラカンバ	T ₁	.	.	.	4.4
	T ₂	4.4	4.4	4.4	.
	S	.	+	+	+
ミヤマイボタ	S	+	+	.	+2
ベニバナイチヤクソウ	H	2.2	+2	.	.
ズミ	S	+	+	.	.
レンゲツツジ	S	.	+2	+2	.
ヤハズハンノキ	T ₂	1.1	.	.	+
亜群集区分種					
タチツボスミレ	H	+	+2	.	.
ミヤマザクラ	T ₂	.	1.1	.	.
	H	+	.	.	.
	S	+	+	.	.
マユミ	H	+2	+	.	.
ヤマドリセンマイ	H	+2	+	.	.
チダケサシ	H	+2	+	.	.
ヤマハンノキ	T ₂	1.1	.	.	.
	S	1.2	+	.	.
亜群集区分種					
オオバギボウシ	H	.	.	3.3	2.2
シラヤマギク	H	.	.	+2	1.2
オオヨモギ	H	.	.	+	+2
カラマツソウ	H	.	.	+2	+2
イタドリ	H	.	.	+	+
リンドウ	H	.	.	+	+
ヌスビトハギ	H	.	.	+	+
サクラスミレ	H	.	.	+	+
随伴種					
ミズナラ	T ₂	.	1.2	.	.
	S	3.3	3.3	+2	1.2
クガイソウ	H	+	+	+2	+2
アキノキリンソウ	H	+	+	1.2	+
タムラソウ	H	+	+	+2	2.2
ヘビノネゴザ	H	2.3	2.2	+	+
出現一回の種					
シモツケ	H	+	ニシキウツギ	S	+
マルバタケアキ	H	+2	.	カラマツ	T ₂ 1.1

(例 3) 同一組成表で 2 以上の植生凡例を示す場合

表示番号

32. ケヤキーイロハモジ群集 (調査区番号 1 ~ 5)

33. ケヤキーアブラチャン群集 (調査区番号 6 ~ 16)

[illegible]

8. 資料リスト

当調査で使用した文献、資料等について次の表になら
とりまとめる。

番 号	筆 者 名（または 発 行 者 名）	発 行 年 （西 暦）	資 料 名

9. 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の所属、氏名、分担分野
を次の表にならとりまとめる。

番 号	氏 名	所 属	分 担 分 野
1	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	総 括 責 任 者
2	× × × ×	× × × ×	× × ×

10. 奥 付 け

奥付けの様式は下図によるものとする。

第 2 回 自然環境保全基礎調査		
植生調査報告書		
昭和55年3月31日		
編集	○ ○	県

環境庁委託調査

< 別紙 5 >

現存植生図帳作成要領

1. 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の 1 / 5 万地形図の大きさとし、
表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は下図によるもの
とする。

裏表紙は厚手のボール紙を使用する。

環境庁委託

第 2 回 自然環境保全基礎調査

現 存 植 生 図 帳

1 9 7 9

○ ○ 県

右とじ

2. 配 列

配列は以下の順とする。

- (1) 表 紙
- (2) 調査対象地域図
- (3) ○○県植生凡例一覧表
- (4) 現存植生図 (地図番号の順とする。)
- (5) 裏 表 紙

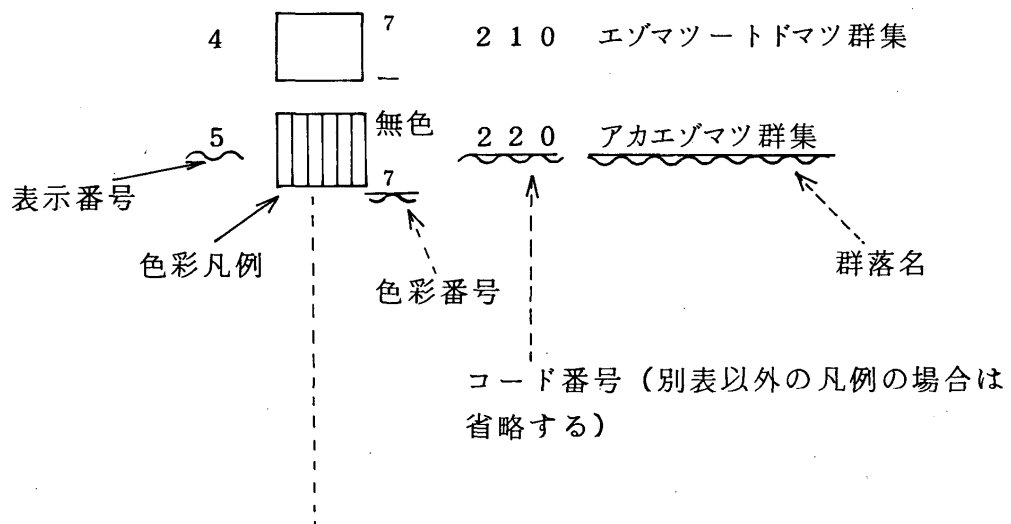
3. ○○県植生凡例一覧表

- (1) 当該県において使用した凡例の「一覧表」を作成する。
- (2) 「一覧表」には、1 / 5 万地形図と同じ大きさのケント紙を使用する。
- (3) 「一覧表」に掲載する凡例は表示番号の若い順とする。
(つまり、別表「植生凡例一覧表」のコード番号の若い順とする。)
- (4) 「一覧表」に、凡例を掲載する際は次の様式によるものとする。

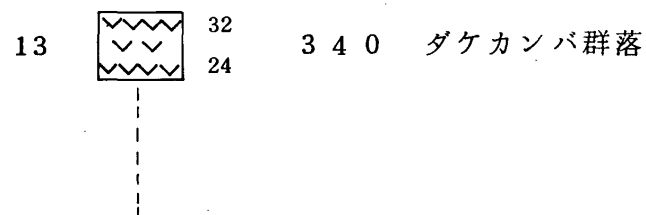
(1) 寒帯・高山帯自然植生

- 1 
- 2 
- 3 

(2) 亜寒帯・亜高山帯自然植生



(3) 亜寒帯・亜高山帯代償植生



(資料 6)

第 2 回自然環境保全基礎調査植生調査
集計整理作業実施要領

1 . 業務の目的

第 2 回自然環境保全基礎調査実施要綱に基づき昭和 5 4 年度に実施された植生調査結果を整理し、各種集計やメッシュ分布図、自然度メッシュ図等の作成を行い、我が国の植生の状況について考察する。

2 . この業務は国がアジア航測株式会社に委託して実施するものとし、業務の実施場所は主として同社内とする。

3 業務の内容

(1) 植生調査報告書内容等の点検・整理

植生凡例解説 3 - (6) の作成に先立ち、環境庁の貸与する植生調査報告書の記載状況内容について記載漏れ、誤記等の有無を点検し、修正する。

(2) 自然公園、保全地域区域図の移写

環境庁の貸与する資料より、自然公園、保全地域の区域を国土地理院 1 / 5 万地形図に移写し、これと植生図原図とを対照し、公園、保全地域ごとの植生図作成状況を把握する。

(3) メッシュ読み取り、コーディング

調査域を標準メッシュに分割し各メッシュ中央5 ha 円において優占する植物群落を読み取り、環境庁の貸与する植生凡例一覧表に基づき、対応する自然度とともにコーディングシートに記入する。又、メッシュが自然公園保全地域に該当する場合は、そのコードを環境庁の貸与するコード番号一覧に基づきコーディングシートに記入する。

コーディングシートに記入する事項は次のとおりとする。

ア．県コード

イ．地図番号

ウ．標準メッシュコード

エ．群落コード

オ．植生自然度

カ．自然公園、保全地域コード

(4) 磁気テープへの収納と内容の点検

(3) の作業によって得られた情報を磁気テープに収納するとともに、入力した情報をすべてブルースリストに出し、情報が正しく入力されたか点検する。

(5) 群落分布メッシュ図、各種集計表の作成

ア．群落分布メッシュ図等

(2) の作業結果に基づき、植生調査の行われた自然公園、保全地域のうち環境庁の指示する地域及びその他必要と認める地域の分布メッシュ図を(4)により作成し

た磁気テープとともに電算機により出力する。

イ．各種集計表

さらに次に示す図表を、(4) による磁気テープ及び国土数値情報をもとに出力する。

行政区分別（全国、地方ブロック、県別）群落出現状況表（出現群落リスト、群落別出現比率）

自然公園、保全地域別群落出現状況表及び群落、自然度別メッシュ数

緯度別（ 間隔 ）群落出現状況表

主要群落の出現範囲（緯度、経度、緯度一標高、行政区分）及び出現比率

(6) 主要群落の凡例解説の作成

環境庁の貸与する植生調査報告書と上記図表に基づき主要な群落 5 0 ～ 6 0 種を選定し、凡例解説を作成する。

凡例解説においては次の点について言及するものとする。

ア．分 布（範囲、分布の中心、特徴など）

イ．種組成（範囲、優占種、特徴など）

ウ．相 観

エ．その他環境庁が必要と認める事項

(7) 考 察

上記 (1) ～ (6) の成果を踏まえ、我が国の植生の状況について考察する。

4．業務の実施方法

(1) 進捗状況の報告

受託者は作業の進捗状況について環境庁担当官に定期的に(月1回程度)報告するものとし、さらに各作業ステップの完了時には作業に支障のない範囲で成果品等の提示を行い、指示を受けること。

(2) マイクロフィルムの作成

作業に使用する植生図(1/5万)原図の破損、紛失による情報の消失を防止するため、予めマイクロフィルムを作成し保管しておくものとする。

5．業務の実施期間

この業務は昭和56年3月31日までの間に行うものとする。

6．報 告

受託者は業務の結果を次によりとりまとめ、昭和56年3月31日までに支出負担行為担当官環境庁自然保護局長あてに提出するものとする。

(1) 報 告 書 200部(別紙要領による)

(2) 植生関連情報磁気テープ 1式

(3) ブルーフリスト

(4) 1/5万自然公園、保全地域区域図 1式

(5) マイクロフィルム 1式

(資料 7)

地域メッシュコード (C6304-1976)

(Grid Square Code)

日本工業規格では、データ処理機械（以下、機械という。）を用いて機械と機械、機械と人との間で情報を交換する場合の経緯度法による地域メッシュコードについて次のように規定している。

地域メッシュという用語の意味は、地域に関する情報を表示するための単位として、全国の地域を対象に、地理学的経緯度に基づいて設定した正方形に近い小区画をいう。

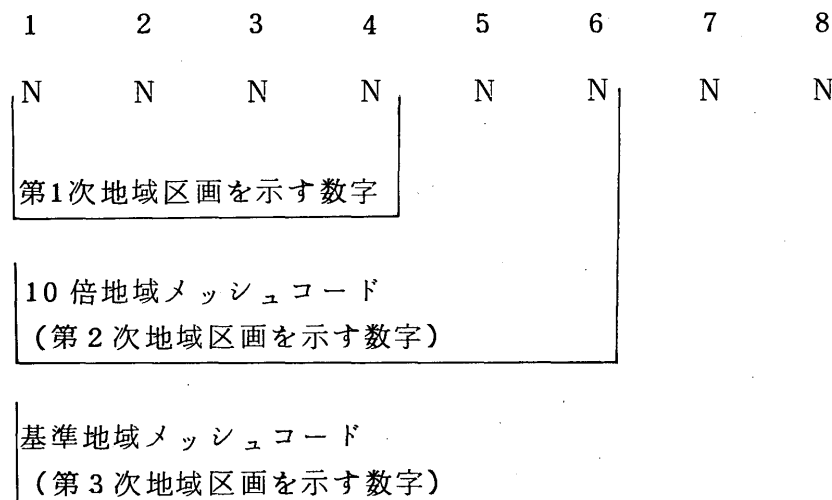
地域メッシュには、基準地域メッシュ、基準地域メッシュを分割した分割地域メッシュ及び基準地域メッシュを統合した統合地域メッシュの 3 種類があり、本調査では、このうち基準地域メッシュを用いて調査を行なった。

基準地域メッシュは、次に定める方法により作成する。

- 1 . 全国の地域を 1 度ごとの経線と偶数緯度及びその間隔を 3 等分した緯度における緯線とによって分割して第 1 次地域区画（ 2 0 万分の 1 地勢図の区画に相当する区域）を作る（図 1）
- 2 . 第 1 次地域区画を経線方向及び緯線方向に 8 等分して第 2 次地域区画（ 2 万 5 千分の 1 地形図の区画に相当する区域）を作る（図 - 2）
- 3 . 第 2 次地域区画を経線方向及び緯線方向に 1 0 等分して第 3 次地域区画（約 1 平方キロメートル区画に相当す

る区域)を作り、これを基準メッシュとする(図-3)

基準地域メッシュのコードの構成は次のように定められている。



”N”は、0～9のアラビア数字1個を示す。

基準地域メッシュコードは、次に定める第1次地域区画、第2次地域区画及び第3次地域区画を示す数字をこの順に組み合わせたものとする。

- 4 第1次地域区画を示す数字は、区画の南端緯度を1.5倍して得られる度数を示す2けたの数字及び西端経度を示す数字から100を減じて得られる2けたの数字をこの順に組み合わせた4けたの数字とする。(図1)
- 5 第2次地域区画を示す数字は、第1次地域区画を経線方向及び緯線方向に8等分して得られる各区画に、経線方向については南から、緯線方向については西から、それぞれ0から7までの数字を付け、これを経線方向に付

けた数字、緯線方向に付けた数字の順に組み合わせた 2 けたの数字とする。(図 2)

- 6 第 3 次地域区画を示す数字は、第 2 次地域区画を経線方向及び緯線方向に 10 等分して得られる各区画に、経線方向については南から、緯線方向については西から、それぞれ 0 から 9 までの数字を付け、これを経線方向に付けた数字、緯線方向に付けた数字の順に組み合わせた 2 けたの数字とする。(図 3)

図 1 第1次地域区画

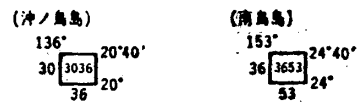
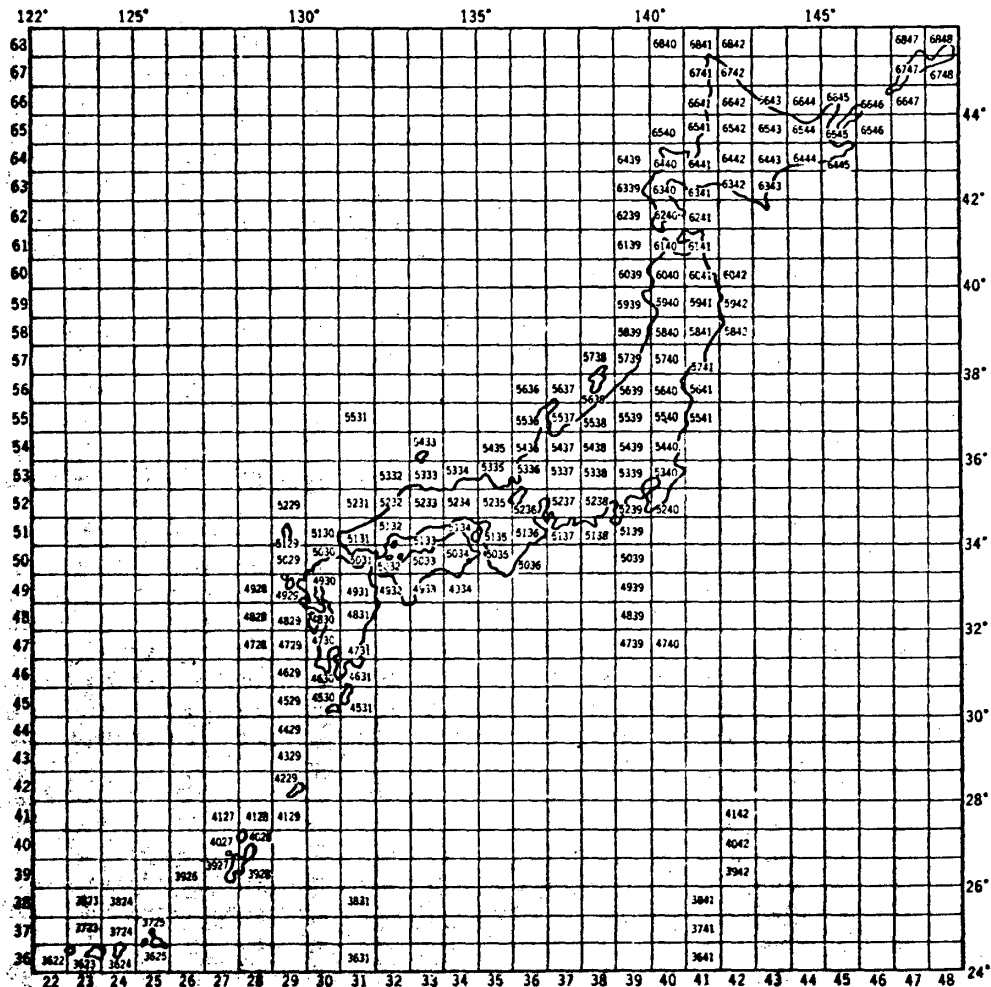


図 2 10倍地域メッシュ (第2次地域区画)

図 3 基準地域メッシュ (第3次地域区画)

7	70	71	72	73	74	75	76	77
6	60	61	62	63	64	65	66	67
5	50	51	52	53	54	55	56	57
4	40	41	42	43	44	45	46	47
3	30	31	32	33	34	35	36	37
2	20	21	22	23	24	25	26	27
1	10	11	12	13	14	15	16	17
0	00	01	02	03	04	05	06	07
	0	1	2	3	4	5	6	7

9	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99
8	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
7	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
6	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69
5	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
4	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
3	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
2	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
1	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
0	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

第 2 回自然環境保全基礎調査

植生調査報告書

(全 国 版)

昭和 5 6 年 3 月 3 1 日

調査委託者 環境庁自然保護局

〒100 東京都千代田区霞ヶ関 3 - 1 - 1

03 - 581 - 3351 (内) 2482

調査受託者 アジア航測株式会社

〒154 東京都世田谷区弦巻 5 - 2 - 16

03 - 425 - 6391 (代表)

環境庁委託

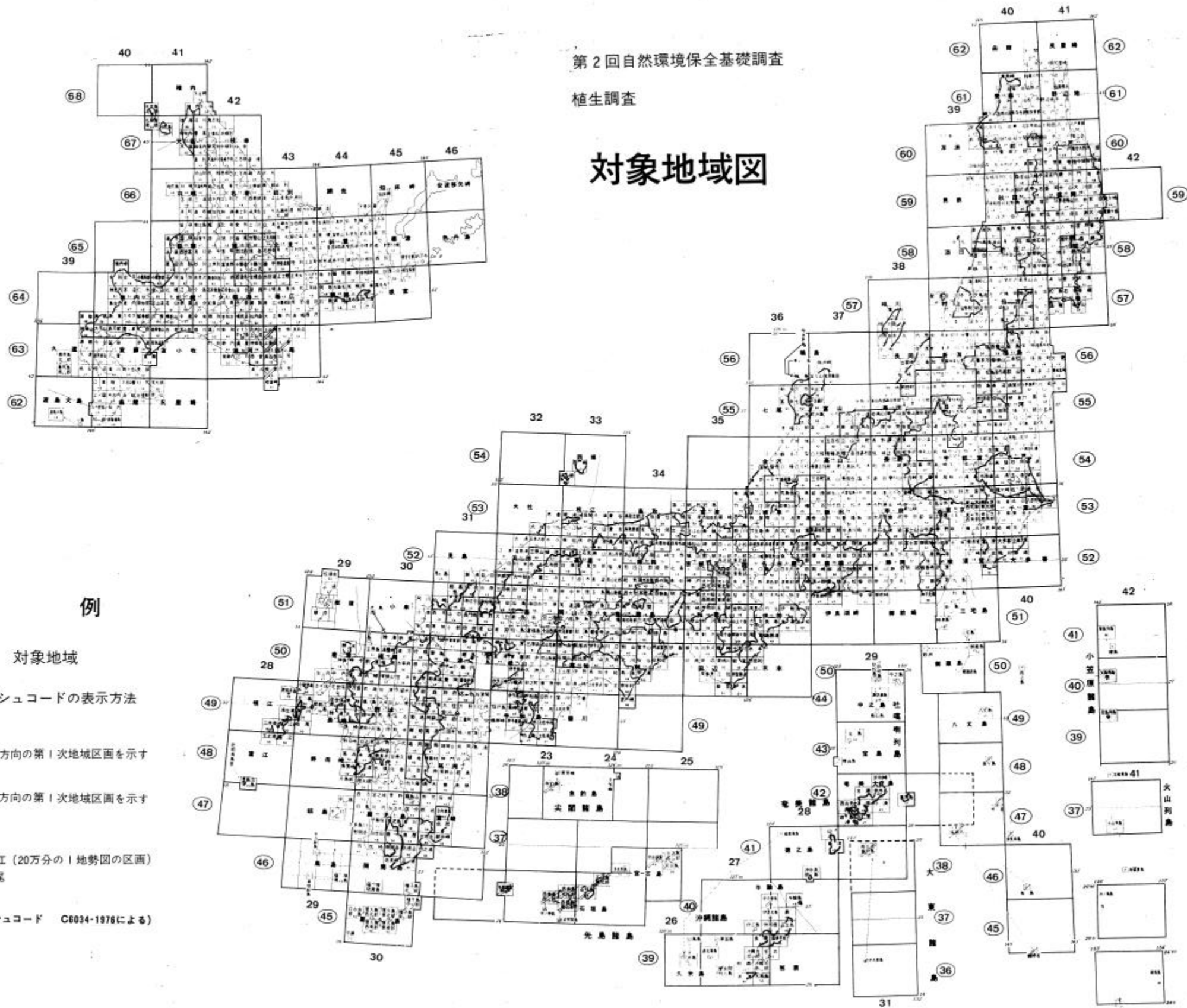
この凡例一覧は、昭和54年度に我が国の年平均の地価を指標として実施した地価調査で採用された凡例をすべて掲載したものである。

[illegible]

第2回自然環境保全基礎調査

植生調査

対象地域図



凡 例

□ 対象地域

地域メッシュコードの表示方法

例

④⑨ 緯線方向の第1次地域区画を示す

28 経線方向の第1次地域区画を示す

(表示の例)

4928 福江 (20万分の1地勢図の区画)

5536 七尾

* (JIS地域メッシュコード C6034-1976による)